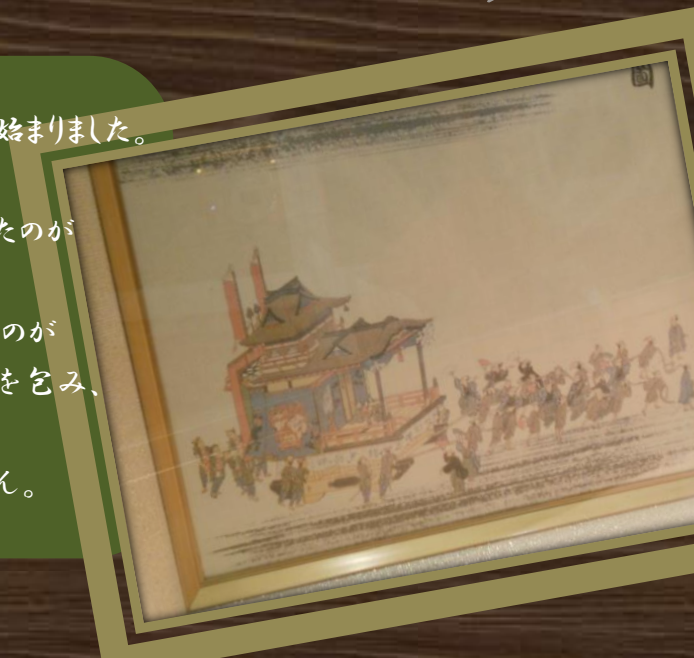
湖北の春を彩る
長浜曳山まつり

曳山まつりが始まったのは・・・

長浜曳山まつりは、豊臣秀吉公が長浜を治めた時から始まりました。
秀吉公に男の子が誕生し、その祝いに町人へ砂金贈り、
これを原資に町人たちが曳山を造り八幡宮の祭礼に曳いたのが
「長浜曳山まつり」の始まりといわれています。
曳山の山車は「動く美術館」ともいわれ、その山車を彩るのが
「子供歌舞伎」。5歳から12歳くらいの男の子が衣装に身を包み、
歌舞伎を演じます。
この名演技に、訪れる人たちの惜しみない声援が絶えません。



曳山まつりの1番の見どころは・・・

長浜曳山まつりの一番の見どころは子供歌舞伎です。
長浜では歌舞伎のことを「狂言」または「芸」と呼び、
曳山5歳から12歳くらいまでの男子によって演じられています。
四畳半の舞台で毎年新しい演目で演じられ、長浜独自の題名がつけられています。上演時間は約40分あり時間が計られます。
子供たちの稽古は振付師の指導により、
3月下旬から4月の祭本日までの約3週間で行われています。

曳山の「動く美術館」

曳山は彫刻や漆(うるし)・箔・飾金具など、長浜の伝統的な
職人技術の粋を集めた精巧なつくりになっています。また背面は、
ヨーロッパのタペストリーなどの華やかな「見送り幕」が
懸けられており、曳山と見事に調和しています。

また、曳山の周りで囃子(しゃぎり)と呼ばれる演奏をしています。